

道東地域の観光地図を眺めていた時に、面白い事に気づいた。釧路駐屯地のある釧路町の特産品として、大根のイラスト共に「北限の大根」と記されていた。北限或いは南限の動植物には何があるのだろうかと思って調べてみた。これが意外に難問であった。日本が南北 2700km に及ぶ長大な弧状列島である証左である。然しながら、北限や南限も時代を降るに従い、逐次に北上或いは南下しているようだ。人間の叡智は不可能を可能にする。或いは地球温暖化も大きい要因かもしれない。



(於：晩成社の跡)

① 北限の稲作

名寄市：1900 年（明治 33 年）に開拓の鋤が入って以来、北限の稲作（もち米）を中心とした農業が基幹産業になっている。

女満別町：500 町（500 ha）もの水田があり、稲作地帯でもある。

純粹に緯度だけで断ずるべきかどうか不明なので、敢えて両者を併記する。

② 名寄市： 野菜産地の北限

③ ブラキストン線：洪積世には本州と北海道は陸続きであったけれども、その後南北方向に数条の断層が生じ、また東西方向にも小規模な断層が生じて、津軽海峡が形成された。この海峡を境に陸上の生物の分布に大きな違いがみられるが、その境界線をブラキストン線という。

(トーマス・R・ブラキストンは、函館で激動の幕末を生き抜いた元英国軍人である。彼は在野の研究者として、「蝦夷」と「日本」の間にある生物学上の境界線を発見した。) それらの代表的な例は次の通りである。

- ・ スギ、オオシラビソの北限、トドマツの南限、
- ・ 日本猿の北限、ヒグマとツキノワグマの生息地の境界、 蝦夷しかと日本鹿、キタキツネ、ナキウサギ(高山の哲学者)、丹頂鶴、 蝦夷リスと日本リス、エゾシマリス、蝦夷狸と本土狸、エゾモモンガ
- 北大農学部附属博物館でしか見られないエゾオオカミと日本狼、
- ・ 蝦夷白蝶、蝦夷姫白蝶、アカマダラ、オオルリオ、サムシ、キノサムシ、シマフクロウ、北海道のミヤマカケスと本州のカケス、今まではクマゲラも北海道のみと考えられてきたが、本州での目撃情報もあるようだ。
- ・ ゴマフアザラシ(能取岬など道東)、ゼニガタアザラシ(襟裳岬)、
- ・ 北海道特産のクワガタとそれ以外との境界、

津軽海峡は最狭部で、高々 18.7km であるにも関わらず、かくも見事に動植物の分布が異なるという自然の配剤に驚かざるを得ない。

- ④ イチゴ：十勝北部(鹿追 etc)、静内
イチゴは仙台付近が北限と考えられてきたが、イチゴ農家の努力により北限が北上中？
- ⑤ ミンミンゼミ：屈斜路湖の和琴半島（天然記念物に指定されている）
ミンミンゼミは、南方系のセミの一種だが、道内では、道南の渡島半島や定山溪付近に生息するのみであるが、驚いた事に和琴半島にも棲息している。氷河期に広く棲息していたものが、地温が高いので生き残ったと考えられている。
- ⑥ 孟宗竹：松前町、佐渡から持ち帰ったものが根付いた？
- ⑦ ブナ：黒松内低地線「北海道渡島半島の寿都湾から黒松内を経て長万部に引く線」
- ⑧ 五葉松：日高管内の元浦川・幌満川流域とこ厚沢部町。この自生地は厚沢部川の支流鶉川流域の山岳地帯にあり、日本海側における北限地帯で、昭和 3 年に国の天然記念物に指定された。
- ⑨ 栗：石狩低地帯、野幌自然休養林(江別市)
- ⑩ わさび：石狩(とあったが、網走でも栽培されているとの情報もあり、真偽不明)
わさびには、ワサビア・ジャポニカと呼ばれるように日本が原産地の本わさびと西洋わさびがある。アブラナ科に属する、半陰性植物で、南は九州から北は北海道までの水が綺麗で水温が年間を通じて一定、水量や強弱が一定するなどの冷涼な気候のところに自生又は栽培されている。一方西洋わさびは、horse-radish、わさび大根、陸(おか)わさび、アイヌわさびと呼ばれる。原産地は東欧、日本では北海道と信州が産地である。日本渡来後、北海道で栽培されたが、普及しないまま野生化し川沿いの湿地に自生するようになった。
わさびは、風味良く食欲増進効果、消臭効果・制菌効果があり、生活習慣病予防効果もあるといわれる。お刺身を食べる時は、お刺身の身の上に直接わさびをのせて、下に醤油をつけた方がわさびの辛味・香りが大である。
本わさびを徳川家康に献上したところ、ことのほか愛好し、門外不出にした。粉わさびや練りわさびは殆んどが西洋わさびである。
- ⑪ ゴキブリ
ゴキブリはかつては北海道には居なかったようだが、本州からの荷物に紛れ込んで来たのかどうかは解らないが、見かけることも珍しくなくなった。近年の家屋の気密化がそれに拍車を掛けているのだろう。
- ⑫ マムシ：かつては棲息していなかったが、近年では見かける。北海道唯一の毒蛇である。道内に「マムシ注意」の看板が立てられている処もある。君子危うきに近寄らず、絶えず四周を警戒することが肝要である。運悪く噛まれたら、慌てず、口内炎や、虫歯がない場合には、傷口から毒を吸い出すのが良い。吸い出せない場合に

は、切開して毒を出すか、縛って毒が廻らないように処置して、病院で処置してもらう。

⑬ アケビ：アケビは、一般には北海道には自生しないと思われているが、実はミツバアケビなるものが、渡島半島にある。本土のアケビは5つ葉であるが、是は名の如くに三つ葉である。アケビは生薬名を木通と言ひ、腎臓炎等のむくみ、利尿等に効能がある。尚、アケビに似ているが果実が裂けないものがあり、それはムベと呼ばれ、西日本に多い。

⑭ 蟻螂（カマキリ）も北海道にはいない。

⑮ 自然薯：自然薯は、岩手県北部が北限と言われ、北海道には自生しない。自然薯ではなく、所謂ナガイモは、北海道でも栽培されている。当地では帯広市川西が有名である。自然薯は「ヤマノイモ」と呼ばれ、ナガイモ、イチョウイモ等の所謂「ヤマイモ」とは、染色体数が異なる別種である。日本はヤマイモ分布の北限で、北緯43度付近まで栽培されている。即ち、ナガイモは、ヤマイモの中では一番北に分布し、関東以北での栽培が多いようだ。

⑯ 淡水魚については、石狩低地帯が境界との説がある。南方・大陸系の魚が道南に見られ、北方から進出したと思われるヤチウグイとうが道南に分布していなかったことから石狩低地帯が境界であろうと推定されるという。

まだまだ、北海道独特或いは北限の動植物等はあるのだろうが、次回以降に譲りたい。例えば、オシヨロコマ、エゾオコジョ、エトピリカ etc

（参考：観光地図、百科事典、各HP）